



Title	<紹介> 川崎佐知子著『応円満院殿御詠歌一近衛基熙の家集』
Author(s)	加藤, のん
Citation	語文. 2022, 119, p. 58
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95249
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

川崎佐知子著『応円満院殿御詠歌―近衛基熙の家集』

加藤 の ん

本書は近衛家第二〇代基熙の歌集『応円満院殿御詠歌』（陽明文庫蔵）を翻刻し、陽明文庫の資料群「基熙公卿詠草」と『応円満院殿御詠歌』の関係を明確にしている。近衛基熙の活動は「基熙公卿詠草」で確認できるが、詠草の整理はまだ途中にある。その整理には、ある程度まとまった数の基熙歌を集めた『応円満院殿御詠歌』の利用が有効であり、本書はその基盤となるだろう。

本書の構成は、翻刻（『応円満院殿御詠歌』第一冊、第二冊）と解題、並びに、和歌会年表、題・詞書索引、初句索引である。

翻刻では、四季、恋雑の二冊全ての和歌が掲載される。その数は、和歌本文の行間や余白に後から挿入された和歌も含め、計二〇〇〇首を越える。それぞれ一首一首の典拠が、基熙公卿詠草などの陽明文庫の資料名が資料番号とともに載り、詠草との対応関係が明らかになっている。また、和歌の詠作事情や歌会に関する記事を掲載する記録名と記事の日付が載せられる他、補説として、同じ折に詠出された和歌が提示され、和歌集への入集状況や本文異同についても記される。すべての和歌について入念な調査がなされ、近衛基熙並びに基熙公卿詠草研究において、欠かせないデータが収録されている。

解題では、書誌のみならず、編纂者の検討から、内容の特色、諸

本、編纂意識、詠草との関係、類題の過程まで言及され、『応円満院殿御詠歌』の概要とともに、『応円満院殿御詠歌』の成立過程が検討される。具体的には、後から挿入された和歌へ着目し諸本と比較することで和歌の挿入意図が指摘されており、陽明文庫の『応円満院殿御詠歌』が家集編纂においてどのような位置づけであったかが明確にされる。また、詠草との対応関係を考察することで、詠草から家集へどのように編纂されていたのかが明らかにされる。本解題は、『応円満院殿御詠歌』と「基熙公卿詠草」の理解だけでなく、近世における詠草から家集への過程の道筋を考えるのにも有効だろう。

「基熙公卿詠草」の整理は、近衛基熙による和歌活動の解明に結びつくと考えられるが、『応円満院殿御詠歌』はその資料整理の有効な支えとなる。川崎氏はあとがきで「関係資料の整理に目処をつけただけ、ようやくスタートラインに立てようかと言った初期段階に過ぎない」と述べるが、本書の資料調査は綿密であり、本書は、今後の研究の発展の基盤となるような書である。また、基熙は後水尾院・後西院・靈元院による公的な歌会が盛んに行われた近世前期において活躍した人物であるため、本書は基熙だけでなく、近世前期の和歌活動の研究にも貢献するだろう。

（古典ライブラリー、二〇二二年二月、六九六頁、

一八、〇〇〇円＋税）

（かとう・のん 本学大学院博士前期課程）